



桜井市【奈良県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成27年3月 ■ 人口：57,705人 ■ 面積：99km²
■ 担当課：桜井市教育委員会 文化財課（平成30年3月現在）



古代から現代まで、国のはじまり、信仰の対象として、日本人の心のふるさとであり続けてきた桜井市の優れた歴史文化を将来につなげるという思いを含め、「大和（やまと）し美（うる）わし 日本（にっぽん）の国（くに）のふるさと桜井」を基本理念に文化財の適切な保存活用と、歴史文化を活かしたまちづくりへとつなげていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

ヤマト王権発祥、国のはじまりの地、
日本人の心のふるさと、記紀万葉、歴史街道の巷

課題

- ・ 地域力向上への活用
- ・ 地域・まちづくりへの活用
- ・ 観光・産業振興への活用

保存活用方針

- ・ 多様な文化財の保存
- ・ 文化財の公開・周知
- ・ 継向学の提唱
- ・ 文化財に携わる人材の育成

保存活用のための取り組み

地域住民や市民活動団体、大学、 企業などの参加・協働

文化財の継承については、地域住民だけでなく、市民活動団体や大学、企業、観光客などの参加・協働をすすめるとともに、行政がコーディネートや広報、参加・連携の機会創出などを担い、支援していく。



市内の総合窓口づくり

新たな文化財の登録や、保存・活用に関わる市民からの相談、歴史文化に関わる市民活動団体同士の連携などを促すため、歴史文化に関わる把握、保存・活用、市民との連携などをマネージメントする総合的な窓口の設置に取り組む。

文化財の継承者・支援者の育成

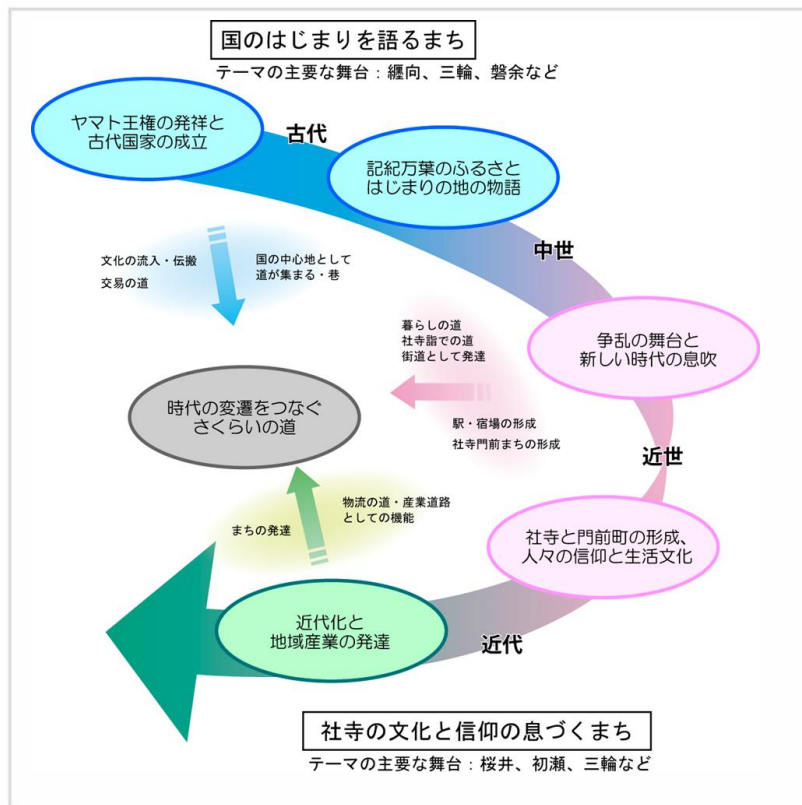
専門家や保存・活用の経験を持った市民団体などと連携することで、地域での学校教育や講習会、顕彰制度等により文化財の継承者・支援者を育成していくとともに、専門家などの紹介や派遣制度の構築に取り組む。



市内、及び周辺市町村との連携 強化

市内の文化財は、指定文化財だけでなく、万葉集に詠まれた風景など多岐にわたる。そのため、教育委員会だけでなく、関係部局との連携が重要となるので、その強化に取り組む。また、広域的な連携が必要な文化財については、県や周辺市町村と連携して保存・活用に取り組む。

関連文化財群



桜井市の関連文化財群の分布は、古墳群や大神神社などの社寺、古道・街道など時代を通じた文化財が集積する市西部の平地部、中世の談山神社にまつわる社寺・祭礼が多い市南部の山地部、長谷寺を中心とした社寺・祭礼が多い市東部の山地部と、大きく3つのエリアに分けることができる。

ストーリー

- ① ヤマト王権の発祥と古代国家の成立
- ② 記紀万葉のふるさととはじまりの地の物語
- ③ 争乱の舞台と新しい時代の息吹
- ④ 社寺と門前町の形成、人々の信仰と生活文化
- ⑤ 近代化と地域産業の発達
- ⑥ 時代の変遷をつなぐさくらいの道

策定後の成果（見込まれる効果）

① 歴史文化の価値の新たな発見
本基本構想により様々な資源を把握することで、桜井市の歴史文化の価値の整理を行った。その結果、新たな遺跡の発見や文化財の新指定といった更なる資源の把握につながり、桜井市の歴史文化の価値を新たに発見するきっかけになると考えられる。



② 保存活用とまちづくりの相乗効果
各地のまちづくり・地域づくりの活動に、本基本構想の考えを反映させることで、文化財の保存活用とまちづくりの双方に好影響を与える相乗効果が期待できる。地域・住民等がまちづくり・地域づくりの活動を通じて結果的に文化財の保存活用の活動に携わることも考えられる。



③ 景観づくりにおける歴史文化遺産
桜井市の景観は豊かな自然環境を背景に、文化財と農地、山林、河川、集落、人々の生活といった多様な要素が重層的に関係しあうことで形成されてきた。この固有の景観を将来世代に受け継ぐなかで、その重要な要素として歴史文化遺産を保存活用する視点が生まれると考えられる。

